

第26回滋賀県看護学会を開催

- テーマ** 看護の変革は未来を創造する
～看護の価値や看護職の多様性～
- 日程** 2023(令和5)年12月7日(木) 9:50～16:30
- 会場** ピアザ淡海
【午前の部】看護研究・実践報告 発表会
【午後の部】《基調講演》

「看護の未来を創造する」

福井 トシ子氏(国際医療福祉大学大学院 副大学院長)

《シンポジウム》

「発信したい『看護の魅力』
～専門職として働き続けるために～」

- 生田 一幸氏(東近江総合医療センター 診療看護師)
- 沖田 聡嗣氏(琵琶湖養育院病院 副看護部長)
- 石井 淳子氏(生田病院 看護部長)

お問い合わせ窓口 滋賀県看護協会 教育部 Tel.077-564-6699

第26回
滋賀県看護学会

大会テーマ
看護の変革は未来を創造する
～看護の価値や看護職の多様性～

日時 2023年12月7日(木)
9:50～16:30

場所 ピアザ淡海

プログラム
午前：看護研究・実践報告
午後：基調講演・シンポジウム(一般公開)
◆基調講演
「看護の未来は未来を創造する」
講師 前日本看護協会会長 福井 トシ子 氏
◆シンポジウム
「発信したい『看護の魅力』
～専門職として働き続けるために～」

お申し込み
滋賀県看護協会
研修申込サイトから↓
<https://shiga-kango.monocle.com/>
0914-345-0411

参加費
2000円
(一般参加は無料)

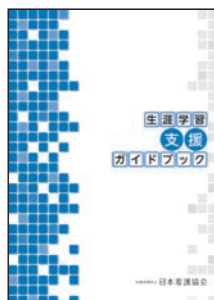
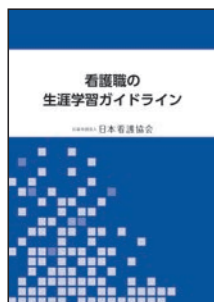
公益社団法人 滋賀県看護協会

教育部 研修案内

日本看護協会から、今年6月『看護職の生涯学習ガイドライン』が公表されました！
「生涯教育」 → 「生涯学習支援」
組織が計画的に人材育成 → 個々のキャリア形成(めざす姿)を組織も支援する

次の研修会を開催します。

- 研修名** 看護職が主体的に学び続けることをどのように支援するか
～看護職の生涯学習ガイドラインを知る～
- 方法** 【オンライン：Zoom】～説明会・意見交換会～
- 内容**
 - 「看護職の生涯学習ガイドライン」の内容
 - 「生涯学習支援ガイドブック」の内容
 - 「看護師のまなびサポートブック」の内容
 - 日本看護協会が提供する看護職の生涯学習の方向性
 - 意見交換 ～看護職の生涯学習支援計画に向けての取り組みと課題～
- 講師** 吉川 久美子氏(日本看護協会 常任理事)
- 対象** 研修担当の任にある方
- 日時** 令和5年12月11日(月) 13:30～16:00
- 受講料** 無料
- 申し込み** 当協会研修サイトよりお申し込みください。《応募期間：令和5年11月1日～20日》
- 備考** 日本看護協会ホームページより次をダウンロードして当日ご参加ください。
「看護職の生涯学習ガイドライン」
「生涯学習支援ガイドブック」
「看護師のまなびサポートブック」



投稿大募集!!

「表紙の写真」「会員の声(ご意見・ご感想)」に投稿をお待ちしています。とりあげて欲しい内容でもけっこうです。広報委員が取材に行きます。ふるってご応募ください。詳しくはホームページ「委員会からのお知らせ」をクリック! ▶次回発刊は1月中旬予定です

Nurse Lake

広報紙「ナースレーク」

Vol.160

2023年10月



“滋賀県かんごちゃん”が
新たに仲間になりました!



賤ヶ岳山頂より(撮影:彦根市 K.Kさん)

CONTENTS

- 《一番星つけた!》
- トルコ・シリア地震における災害支援……………2～3
- 地区支部だより……………4～5
- Voice～これからの看護職に期待すること～……………6
- 【活動報告】助産師職能委員会/労働環境改善委員会…6
- 医療安全通信……………7
- 甲賀圏域看護職員確保検討ワーキング……………8
- こんにちは事務局です……………9
- ナースセンターだより/はたさぼ通信……………10～11
- 第26回滋賀県看護学会を開催/教育部 研修案内…12

発行所 ●公益社団法人 滋賀県看護協会
発行責任者 ●会長 草野とし子
〒525-0032 滋賀県草津市大路二丁目11番51号
TEL.077-564-6468 FAX.077-562-8998
<https://shiga-kango.jp/>

モバイルサイト



滋賀県看護協会

検索

三方よし精神で 看護の力で
滋賀を元気に!
一住み慣れた地域で健康に暮らせるために

滋賀県看護協会会員数(令和5年9月3日現在)

保健師/ 326人 助産師/ 315人 合計 9,079人
看護師/ 8,292人 准看護師/ 146人

一番星★
見つけた!



トルコ・シリア地震における災害支援

若原 聖徳 済生会滋賀県病院 救命救急センター 看護係長

※写真：JICA提供

2023年2月6日、「トルコ・シリア大地震」と呼称されるトルコ南東部を震央として発生した地震で、南隣のシリアにかけて大きな被害がでました。トルコの死者50,096人、負傷者115,000名以上（日本時間2023年3月31日時点（外務省発表））。報道などにおいてもシリア国内でも5,900名を超える死者が発生したと言われています。

地震発生の当日、トルコ政府の要請を受け、日本から外務省、警察庁、消防庁、海上保安庁、JICAに登録している医療班、構造評価専門家、及びJICAの職員からなる救助チームの派遣を決定。更には、2月10日から医療チーム1次隊（75名）・2次隊（65名）・3次隊（41名）の延べ181名が派遣されました。派遣場所としては医療ニーズの高いトルコ南東部Gaziantep県、Oğuzeli（保健省管轄病院9施設、2,513床、個人病院は19施設2,348床、開業医数547名：invest in Gaziantep・<https://www.ika.org.tr/assets/>



upload/dosyalar/invest-in-gaziantep.pdf) に、野外診療としての活動を実施。国際緊急援助隊として、手術機能や入院病棟などを伴う緊急医療チーム（EMT）「タイプ2」が初めて行われました。多い日で100名以上の患者が来院し、昼間の外来診療に加えて、各種検査やレントゲン撮影、夜間診療、手術、入院など約2,000人を診察。3月11日に診療活動を終了しています。

日本において、1979年以降海外で大規模な災害が発生した際に、医療従事者からなるチームを派遣し、被災者への支援を行っています。その後、1987年には「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」が制定され、同法に基づく国際緊急援助隊（Japan Disaster Relief Team：JDR）が派遣されるようになりました。JICAがその事務局を担っており、災害救援物資の供与だけでなく、これまでに161件の支援チームが派遣されています。

現在、国際緊急援助隊には、捜索救助を担う救助チーム、災害時の医療ケアを担う医療チーム、感染症に対峙する感染症対策チームのほか、災害地のニーズに合わせて組織される専門家チーム、更に自衛隊の部隊などがあり、複雑・多様化する災害の態様に応じた緊急援助を実施しています。全国各地の有志と共に訓練を重ね、必要な物資を備蓄し、いざという時に出動できる体制を日々整えているわけですが、このうち救助チームは2010年、国連の国際捜索救助諮問グループ（INSARAG）により、最も高度な救助活動ができる「ヘビー級」の認証を取得。また医療チームは2016年、世界保健機関（WHO）により、専門的・組織的な緊急医療が可能なチームとして「EMTタイプ2」の国際認証を受けています。

個人的に、これまで、病院で勤務しながらも病院の理解と協力を得ながら、JDR医療チームに所属させて頂き、定期的に研修や訓練を重ねて

いました。更に2年ほど前からは一人の隊員としてだけでなく、医療チームの中のメディカル・サプライ班として被災地で活動するのは当然の責務として、日本に居るときから現場で活動する事を想定しつつ、定期的な医療資器材のメンテナンスを行ったり、いつ出動しても良いように物品を揃えたり、チェックしたりと他の班員と共に活動を続けていました。今回、病院の後押しを頂戴し、2次隊のメンバーとして2月23日から3月8日までトルコに派遣させて頂きました。活動場所におけるOğuzeliの街並みとしては、Kahramanmaraş県などの激震地から少し離れていましたので、街全体の大きな被害は他に比べるとそれほど大きくはありませんでしたが、それでも周辺の家屋は損壊していました。Oğuzeli国立病院では建物に亀裂が入り安全性の面から診療が困難となったため近くの職業訓練校に仮設診療所を設置。毎日100人前後の患者が訪れていました。我々日本チームとしては、そのOğuzeli国立病院の仮設診療所にかかる医療ニーズへの負



担軽減を目的とし医療活動を行なっています。診療活動は常にトルコの方々の意見を尊重しながら信頼関係を結びつつ、我々が出来る最大限のパフォーマンスを発揮できる様診療にあたっていました。

日本の医師による診察で投薬の必要がある場合は、Oğuzeli国立病院の薬剤師によってトルコで承認されている薬剤の処方箋が発行され、また、我々の診療後に高次機能病院や専門病院への転院が必要と判断された後は、Oğuzeli国立病院によって転院手続きを行ったりと共同で活動しています。日本から医療チームが来ているからと我々の診察を希望され来院される方もおられました。

先に述べさせて頂きましたように、2次隊だけでも総勢65名から成る人員で活動しています。本部機能として、Oğuzeli国立病院の関係者と連携したり、地域の保健省との連携、マスコミ対応などの外部との連携、日本の医療チームとしての総括を行う人々や、診療として、受付から外来、入院、手術にあたる人、放射線科や検査技師、CE、薬剤師やリハビリなどのコメディカル、その診療や生活全般を裏で支えるロジスティクスなど役

割は多岐に渡ります。それぞれの役割を一生懸命熟す事で日本の医療チームとしての活動を盛り上げていました。

私自身は、主に日ごろメディカル・サプライ班としてかかわらせて頂いた為か、サプライセンター部門長としての役割を頂戴し、数人のメンバーと共にチームとして日本から輸送された何十tという医療資器材を安全に管理し把握すると共に、直ぐにでも活動に繋げられるよう整理整頓、鋼製小物の滅菌作業の実施と確認を行い適宜払い出すといった活動を行っています。他にもCEや薬剤師の状況を確認したり、サプライ部門のメンバーの体調や精神的な健康管理、他部門との連携、そして診療を行っている他のスタッフが出来る限り円滑に、慣れない環境下においても最小限のストレスで活動出来る様、医療的側面から何をすべきかを考え「医療資材だけでなく資材を取りに来るスタッフに対し、日本チームの我々が笑顔になれるような場をサプライ（Supply：供給、提供）しよう！」を合言葉に活動を行っていました。私個人が看護師として、直接患者さんへの点滴を行ったり、診療の補助を行うといった事はありませんでしたが、それでもチーム全体としての活動がトルコの方々にとって安心して喜んでいただけたのであれば、少しは寄与できたのでは無いかと感じています。まだまだ、個人的に沢山の課題がありましたが、それに関しても帰国後からトルコで使用した資器材の片付けや整理などを行いつつ現在も次なる災害に備えて準備を整えております。日本国内においても有事の際には、DMATなどの様な災害医療の専門チームだけに限らず、これを読んでくださっている我々医療者全てに沢山の問題が降り注がれると思います。日頃行えていない事は災害だからと言って行う事は出来ません。日常で出来ている事をいかに、災害の現場で駆使しながら行うのか、行えるのか、そう思いながら日々の業務にもあたっています。今回、日本の医療チームとして出

させて頂きましたが、まだまだ未熟ながらも滋賀県の中にもこういう活動をしている人間がいる事を知って頂いて、それこそ興味を持って頂き、共に活動してくれる人が一人でも増えたら幸いです。今回、全国各地から有志が集まり、初めて空港で合う人たちがこれまでに共にかかわってきた仲間たちと出会う活動させて頂きました。そういった方々に支えられながらも、一人の看護師として、自身が培ってきた看護を病院や施設などの中だけではなく、世界にまで届ける事が出来るのです。被災地にはあなたを「あなたの看護」を待っている人が居ると思います。そして新しい文化や環境で得た知識や技術をご自身の活動する現場で発揮できればより良い活性化に繋がるのではないのでしょうか。この場をお借りして、今回トルコ派遣において、家族や職場など周囲の理解と協力があったからこそ実現できたことを忘れません。これからも感謝の気持ちを忘れず、得た知識と技術を活かして、更なる成長を目指していきたいと思ひます。再度、職場と家族に心からの感謝を述べたいと思ひます。



第1地区支部

支部長/西村 由香

第1地区支部では、外来や診療所看護の充実に向け看護ネットと連携し活動しています。

1) 第1回支部集会: 7月8日(土)開催(37名参加)

草野と子滋賀県看護協会長より「令和5年度事業計画について」講演/令和4年度支部活動と令和5年度活動計画について報告

2) 第1回研修会: 同日開催(2022年度滋賀県看護協会看護師長研修報告2名)

3) 第2回研修会: 看護ネットと協働し開催予定

外来看護の連携についてアンケートにより課題を抽出し、事例を通し検討

4) 「スペシャリストに学ぶ」事業

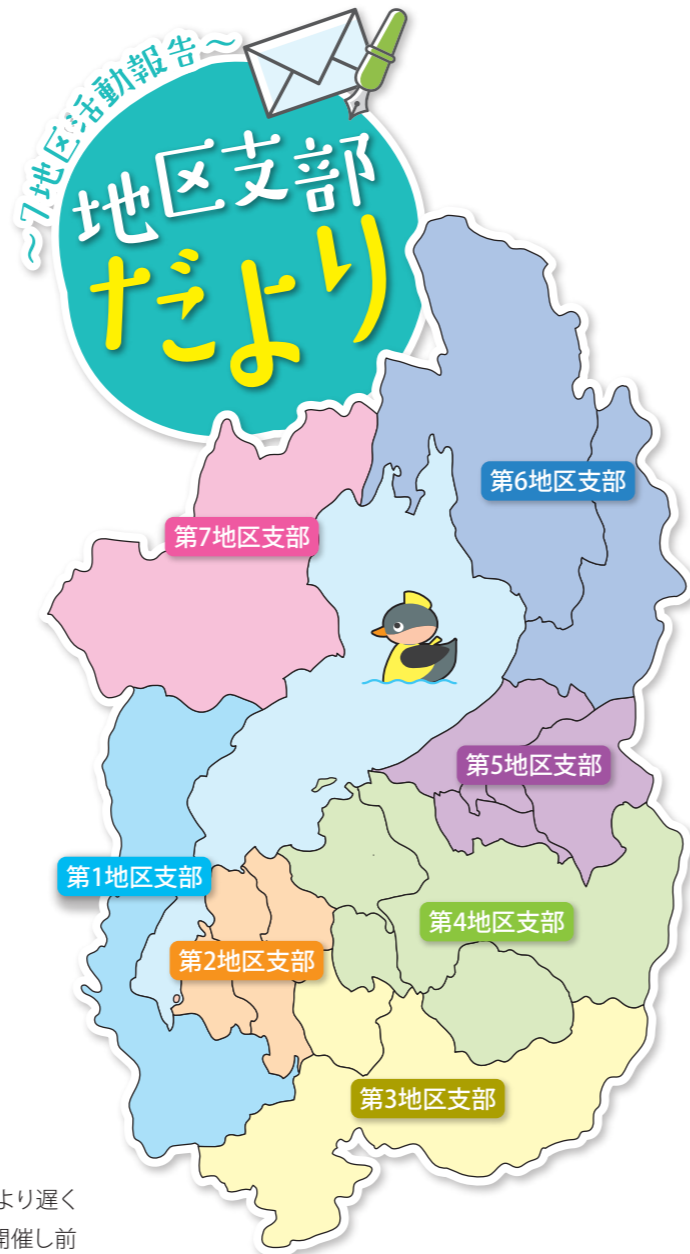
5) 大津健康フェスティバル参加(10/29)「救急蘇生とAED体験コーナー」

6) 地区支部だよりの発行

研修会の様子、他機関との連携状況、第1地区支部内の施設などを紹介

7) その他の機関からの依頼事業への参加

今年度の地区支部活動におきましても、昨年度同様、皆様のご協力をいただき、ネットワーク強化に努め活動してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



第2地区支部

支部長/上野 竜也

まだまだ楽観的になれない状況ではありますが、ようやく新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、少しずつ新たな日常が始まりつつあります。これまでやむなく足踏みしていた第2地区支部の活動も、今年度はコアネットKONANと協働しながらの研修や、管理栄養士等との「多職種連携」を軸に据えた研修会の企画も進めています。

10月1日には、希望が丘文化公園・秋まつりに「まちの保健室」として参加し、地域住民の方々の健康チェックや相談などの活動を行ってきました。

また、認定看護師等による出前講座についても、今年は昨年よりも幅広い分野で講師受諾をいただきましたので、引き続き取り組んでいく計画です。

今年度もバリエーション豊かな診療科や施設形態が多く集まる第2地区支部ならではの特性を生かし、広く地域住民のみなさんに貢献できる看護活動が広がっていくことを目指し、皆さんの協力を得ながら活動していきたいと考えています。



第3地区支部

支部長/與那城 隆幸

第3地区支部活動について、他の地区より遅くなりましたが8月19日に地区支部集会を開催し前年度企画より変更した今年度の活動予定を報告しています。

【重点事項①】●地域のニーズから退院指導や連携に関する事例検討会を企画 ●令和6年に新社会人の理解をテーマに人材定着や育成に関する研修会を予定 ●コロナ対策の緩和に合わせて出前講座の運用も再開を予定。圏域内のリソースナースの活用とマッチングから計画・運用

【重点事項②】●第一回目の看護ネットワーク推進会議: 8月3日に「看取りの見える化シート」の研修会とグループワークを実施 ●第二回ネットワーク推進会議を10月、地域包括ケアフォーラムを令和6年1月に予定

【重点事項③】初の取り組みとして「プラチナナースの集い」を8月3日地区支部集会とともに開催。圏域で活躍している先輩看護師2名に登壇いただき、インタビュー形式で経験を語っていただきました。参加者の意見も好評で、次年度も継続できればと考えています。



プラチナナースの集い

第4地区支部

支部長/国領 久美

第4地区支部は本年度最初の研修会として、8月5日に「新入職者のためのストレスマネジメント」の題名で滋賀八幡病院心理検査科公認心理士の首藤賢先生をお招きして25名の新入職者が参加する研修会を開催致しました。

ストレスについて概観を知ると共にセルフケアとして交代勤務・夜勤勤務のある場合の生活の工夫、アンガーマネジメントとして腹式呼吸法の実践などを具体的に学び、とても有意義な時間を過ごすことができました。「看護の力で東近江を元気に!」を合言葉に、地域を支える看護職の定着と看護実践能力の向上を目指す方針に繋げる事ができたのではないかと考えています。

地域包括ケアシステム発展に向けて、10月には「事例から学ぶ訪問看護の現状と連携」をテーマにした研修会を予定しております。今後も看護職の連携強化を図り、地域住民の安心安全な生活を支えることを目的とした活動を行って参りたいと思います。



メンタルヘルス研修会写真

第5地区支部

支部長/矢田 晴美

第5地区支部活動(主に研修)は、3年以上に及び新型コロナウイルスの感染対策に翻弄されながらも、可能な方法で工夫し実施してきました。

今年度は5類に移行した事により対面での研修が可能となり、前期は8月5日にリフレッシュ研修「日常に取り入れるアロマ〜日焼け止めクリーム・虫よけスプレーを作ろう〜」(写真)を実施し、仕事や日常生活の中で役立てられる方法を学びました。後期は、11月11日 聖泉大学「万聖祭」に参加し手洗いチェックや指導、11月25日 看護協会草野と子会長に「看護職に求められること」のご講演を計画しています。また、12月ストレスマネジメント「ストレスに負けない自分づくり」、令和6年2月全世代型地域包括ケアフォーラムも実施予定です。

今後とも感染症対策を講じながらの活動になりますが、会員の皆様の暖かいご理解とご支援・ご参加をよろしくお願いいたします。



第6地区支部

副支部長/野村 耕一郎

第6地区支部は、多職種連携に重点を置き活動を行っています。看護職ネットワーク推進会議と連携して研修会や事例検討会を行っています。コロナも5類となり感染対策を行いながら講演会やまちの保健室などを行っています。

今年度は、「在宅看護の目指すところ」というテーマで講演会を開催しました。湖北圏域の病院、訪問看護ステーション、診療所、介護保健福祉施設、保健所、市町保健センターなど働く場所の違いで、患者や利用者に対して重要と感じている視点が違う事や知識の違いなどがあることを知りました。この思いの違いを埋める活動ができるように今年度もさらに看看連携の強化、地域連携強化に努めてまいります。

今後の活動計画には、働きやすい職場環境講演会では滋賀県看護連盟会長 力石 泉先生をお招きして開催しますので、お問い合わせの上ぜひ参加をお願いします。また、感染対応研修会、看護管理者研修会、出前講座、まちの保健室などを計画しています。湖北圏域約1,300人会員の皆様の暖かいご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



第7地区支部

支部長/藤本 栄江

令和5年度、第7地区支部では「地域で働く看護職が協働して、誰もが働きやすい労働環境の充実と改善」を地区の活動方針としています。

①お互いに助け合いながら、誰もが働きやすい労働環境の充実と改善

新人リフレッシュ研修会「接遇研修」、卒後3年目研修「高島市における様々な医療・福祉サービスについて」を開催します。

②看護の質の向上と看護の実践能力の強化

看護研究発表会や研修会を行い看護の質の向上に努めると共に、湖西圏域入退院支援ルール評価検討事業に協賛して事例検討会を行います。

③地域包括ケアを支える看護の機能強化

出前講座に同行したり、様々なイベントに参加して、まちの保健室として、健康チェックや健康相談を行います。顔の見える関係作りをモットーに、一人一人が助け合い、切磋琢磨しながら成長出来る関係を構築したいと考えています。



メンタルヘルス研修会

一般社団法人滋賀県薬剤師会 副会長 磯矢 毅氏

薬剤師は、健康サポートや保険調剤での服薬支援、介護保険での居宅訪問、また学校薬剤師やスポーツファーマシストとしては、アンチ・ドーピングや薬物乱用教育など様々な形で県民の健康(予防)、医療、介護に奮闘しております。現在、コロナ禍の出口を模索している状態が続いております(令和5年8月)。運よく?この3年間で医師・看護師(保健師含む)・薬剤師が連携の大切さを実感することができました。2025年地域包括ケアシステムの実現を目指

して看護師と薬剤師の「他職種連携」で、目の前の患者さんに今できることはなにかを共に考えていきましょう。臨床に長けている看護師さんとの情報共有は、アドヒアランスの向上やポリファーマシー、褥瘡処方の選択、ターミナルケアにおける疼痛管理などにおける迅速適格な判断に不可欠です。お互いが「何を考えているか」を分かりあい、提案し、これからも良好な関係を築いていきましょう。



職能委員会 活動報告

助産師職能委員会

委員長 立岡 弓子

助産師職能委員会では、助産師の実践能力向上にむけた研修の企画運営を行っています。今回は8月に実施した研修について報告します。

《開催報告》

2023年8月9日「それでいい? 新生児のアセスメントとケア」

① 講師：柳貴英氏(滋賀医科大学小児科学講座講師)

内容：「新生児の病態生理と異常の対応 こんな時、あなたならどうする?」

新生児一過性多呼吸・早期黄疸・チアノーゼの原因疾患・新生児低血糖について、産科病棟の分娩室や産科クリニックで起こりやすい事例をもとに、新生児への愛情溢れるわかりやすい講義でした。



② 講師：栗原通子氏(近江八幡市立総合医療センター 新生児集中ケア認定看護師)

内容：「ハイリスク新生児の特徴とケア」

早産児・ハイリスク児の特徴とディベロップメンタルケアの視点と実践方法、そして、医療的ケアを必要とする新生児医療現場での実際に即した多くの内容を盛り込んだ講義でした。特に早産児の哺乳ポイントやLate preterm児の特徴について、Term児とは異なる具体的な看護実践を学ぶことができ、明日からすぐに臨床で活用できる貴重な内容でした。



お知らせ

今期の助産師職能集会は2024年5月25日に開催致します。テーマ：「高めよう家族力～助産師にできること～」(案)

委員会 活動報告

労働環境改善委員会

委員長 吉田 千春

委員会では、令和1～4年度の「滋賀県看護職実態調査報告書」の結果を比較検討しました。結果は、以下の3点となります。

- ① 新型コロナウイルスの影響で離職率は増加傾向。しかし、新規採用者の離職率は各施設の取り組みの成果で低下している。
- ② 自身のライフステージに合わせ、転職・退職も含めた柔軟な働き方をする看護職が多い。
- ③ 退職者が次の職場を探る際、ナースセンターの利用率は低い。

以上のことから、教育機関と病院などが協力し、キャリア形成について早い段階から取り組むことが必要です。看護管理

者においても、定年退職後これまでのキャリアを活かし滋賀県内で保健・医療・福祉に携わり、働き続けてもらえるような支援を行うことが重要である。また、有料職業紹介所の活用ではなく、無料紹介所であるナースセンターの活用推進を周知するためのツールとして、容易にアクセスできるアプリなどの作成も提案していきます。

これらの結果・分析の中から、看護職のキャリア形成に焦点を当てた取り組みが必要と考え、研修企画を予定しています。様々な背景を持つ看護職が自身のライフワークに合わせながら、キャリアデザインを描き働き続けられる一助となればと考えています。皆様と共に歩む委員会として活動して参ります。

医療安全通信

医療安全推進委員会 vol.48

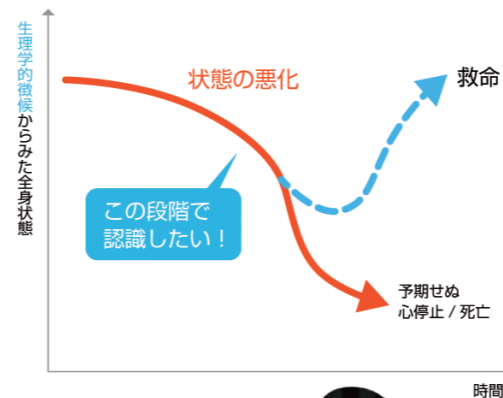
早期警告スコア(NEWS)で患者さんの急変を予測しよう!!

●臨床で働いている看護師なら、一生に一度は遭遇するであろう患者さんの急変現場…



●急変は予測できるのか???

- ▶ 急変の前には必ず前兆があります!
- ▶ 前兆を早く認識して、早期警告スコア(NEWS)を用いることで患者さんの急変は予測できるかもしれません。



- 患者さんの急変は、6～8時間前に急変の前兆が認められる!とされています。
- つまり、患者さんの状態変化(悪化)にいち早く気づき、対処すれば、急変を防ぐ事が出来ます。
- 中でも、呼吸回数の変化は真っ先に現れてくる前兆です。日々の業務の中でしっかりと観察していくことで急変を早期に認識、予測する事が出来ると思います。

NEWS

速報

患者さんのバイタルサインを点数化し、状態変化を知らせるツールです。

項目/点数	3	2	1	0	1	2	3
呼吸数	≤8		9~11	12~20		21~24	≥25
SpO ₂	≤91	92~93	94~95	≥96			
酸素投与		あり		なし			
体温	≤35.0		35.1~36.0	36.1~38.0	38.1~39.0		≥39.1
sBP	≤90	91~100	101~110	111~219			≥220
心拍数	≤40		41~50	51~90	91~110	111~130	≥131
意識				覚醒			JCS≥1

早期警告スコア National Early Warning Score (NEWS)

●NEWSスコアの合計点で患者さんの急変リスクを予測することが出来ます。

- スコアの合計点
- 【低リスク】0点もしくは1点～4点
 - 【中リスク】5点～6点、もしくはRed Score(3点項目)が1つでもある場合
 - 【高リスク】7点以上(急変の可能性大)

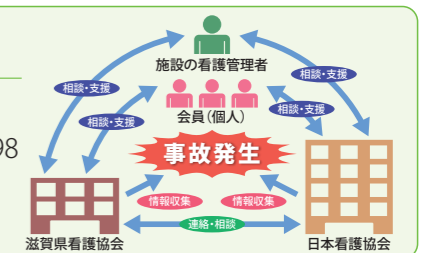
中リスクから注意が必要!



- 患者さんのそばにいる看護師の「ちょっとおかしい?」という感覚は非常に大切な感覚ですが、それを言語化することは難しく、NEWSはそのちょっとおかしいを数値化することができるツールです。
- 施設によって基準は異なりますが、中リスク以上は医師への報告を推奨します。
- NEWSを用いることで、患者さんの急変を予測し、回避するための足がかりとなれば幸いです。

医療安全相談窓口

- 受付時間：9時30分～16時(平日のみ)
- 場 所：滋賀県看護研修センター内 TEL.077-564-6468 / FAX.077-562-8998
- 担 当：看護協会長・常務理事・医療安全推進委員(適宜)
- 方 法：電話相談・来訪相談・FAX相談



甲賀圏域看護職員確保検討ワーキング

滋賀県の看護職員は、17,249名(2020年末)が活躍しています。しかし、その看護職員を人口10万人対で見るとその就業数が、圏域ごとに差があり、甲賀圏域は、県平均に比して少ない状況となっています。そこで、甲賀圏域の看護職の確保に向けて、圏域の様々な組織が協力して取り組みを行っています。そのワーキングの活動を紹介します。

県

滋賀県健康医療福祉部 医療政策課 **本田 智美**

滋賀県では看護職の確保が喫緊の課題であり、その対策に力を入れて取り組んでいます。課題の一つとなっている地域偏在を解消するため、昨年度からモデル的に甲賀圏域において、教育現場(高等学校、養成所)、看護職の働く場(病院、訪問看護ステーション、介護施設)、ハローワーク、ナースセンター、および行

政(市、保健所、県)の関係者で構成する「甲賀圏域看護職員確保検討ワーキング」を設置しました。看護職確保の現状と課題を共有し、今後圏域でどのような取り組みができるのか検討し、実行することとしています。

今後は他の圏域でも広げていきたいと考えています。

甲賀市

甲賀市健康福祉部 医療政策室 **熊野 宏宣**

甲賀圏域看護職員確保検討ワーキングで共有した情報を参考に、甲賀市では独自の支援策により看護職員の確保に取り組んでいます。

リスタート(復職)を支援

市内医療機関等でリスタートされる看護職員について、所定の復職支援研修の受講1日につき1万円(最大10万円)を支給

「甲賀へ看護しにこころか!」と思っていただけるよう、市内の医療機関や看護学校の情報が効果的に伝わるPR方法も工夫したいと考えています。

転入・就業にともなう家賃を補助

甲賀市へ転入し市内の医療機関へ就業される看護職員に対し、月2万円(最大2年・48万円)を上限に家賃を補助

甲南病院

甲南病院 **廣瀬 京子**

「ともに考え、ともに取り組み、ワンチームで甲賀圏域内の看護職を確保する」をテーマに甲賀圏域看護職員確保検討ワーキング会議が結成され、まる一年が経過しました。

昨年は1年間かけて各施設(教育機関・病院・訪問看護・介護施設・職業紹介所等)の課題を共有致しました。今年度はいろいろな具体的な活動内容を熱く議論しております。それぞれの

立場の方々と顔の見える関係になり、一つの課題に向けて取り組むと、今まで見えなかった斬新なアイデアも議論出来ております。

労働力不足が深刻化する2040年に向けて、看護・介護に関わる人員を増やし、甲賀圏域の皆様が安心して地域で生活しているように連携を強化していきたいと考えております。



甲賀圏域での今後の取り組み

●看護の魅力発信イベントの開催

幼児から学生及び保護者を対象とし、土日商業施設で実施
[11月26日イオンタウン湖南にて「地域ふれあいフェス」]

●甲賀圏域単独の就職説明会開催

「介護」と同時に甲賀市・湖南市の医療機関、訪問看護ステーション、介護福祉施設に参加要請する [12月予定]

●圏域看護師養成所を対象とした就業ガイダンスの開催

様々な場所でいきいき働く地元の看護職の働き方を学生の時から知り職業選択、キャリアデザインに役立てる [11月14日(火)予定]

こんにちは事務局です

令和6年度 予算・政策に関する要望を実施しました

令和5年9月12日、滋賀県知事に対して、令和6年度予算編成に関する要望書を提出しました。

〈要望事項〉

1. 滋賀県保健医療計画に看護職員・看護補助者の目標数と確保方を明記されたい。
2. 全ての看護職の処遇改善の実現に支援していただきたい。
3. 県・市町行政の新人保健師の確保定着のための支援体制を整備されたい。
4. 看護専門学校専任教員が学生指導に十分な時間を確保できるよう、専任教員の増員など必要な支援をされたい。
5. 産休・育休から職場復帰する看護職が希望する保育所に入所できるよう、市町における体制整備への支援を強化されたい。
6. 新興感染症発生時に活躍できる感染管理認定看護師養成機関の開講に向けご尽力をお願いしたい。
7. 介護施設の看護職の実践力向上に向けた支援体制強化を図られたい。
8. 母子の健康に関する様々な施策を総合的に支援する体制の強化を図られたい。
9. 周産期医療の4ブロック化や地域の母子保健の体制充実に向けた協議においては、助産師など看護職の現場の声を反映されたい。
10. 医療的ケア児を支援する看護職員が安心安全に働く環境づくりの構築をお願いしたい。
11. 認知症患者を「増やさない」「悪化させない」ことを目指した「せん妄発症予防」のための体制整備に向けて支援していただきたい



理事会報告〈第3回理事会〉

令和5年9月16日

I あいさつ

II 決議事項

1. 公益社団法人滋賀県看護協会寄付金規程(案)について

III 協議事項

1. 研修受講料の改定について
2. 看護師確保対策の推進に向けて

IV 報告事項

1. 重点事業の中間報告(進捗)について
2. 地区支部活動中間報告について
3. 資金運用について
4. 滋賀県知事等への要望について
自由民主党滋賀県議会議員団…6月14日
滋賀県議会チームしが県議団…8月28日
滋賀県知事……………9月12日
5. 業務執行理事活動の報告

V その他

1. 「会員限定優待制度」について
2. 女性のつどい 出席について

会員確保委員会より

会員確保促進チラシが完成しました!

ぜひ、チラシを活用し未入会の人に協会の魅力をお伝え下さい!

滋賀県で働く
保健師・助産師
看護師・准看護師の
みなさん

会員募集!!

入会は
こちら!
簡単手続き!!

詳しくは裏面を
ご覧ください

公益社団法人 滋賀県看護協会
〒525-0032 滋賀県甲賀市大津 2-7-8 11-51
TEL 077-564-6466 FAX 077-562-8996
email sgkan@sgkd.or.jp

滋賀県看護協会はみなさんを支援します!


入会者の声

お問い合わせ先：滋賀県看護協会 077-564-6466


ナースセンターは看護職の皆さんを支えます!!



お仕事探し
見学・面接の調整
求人情報の提供



研修
復職支援研修
採血技術研修 他



各種相談
就職相談
こころの相談

会員でない方も利用できます **全て無料で受けられます!!**

ご利用の際は、eナースセンターにご登録ください

eナースセンター登録手順(PC画面)



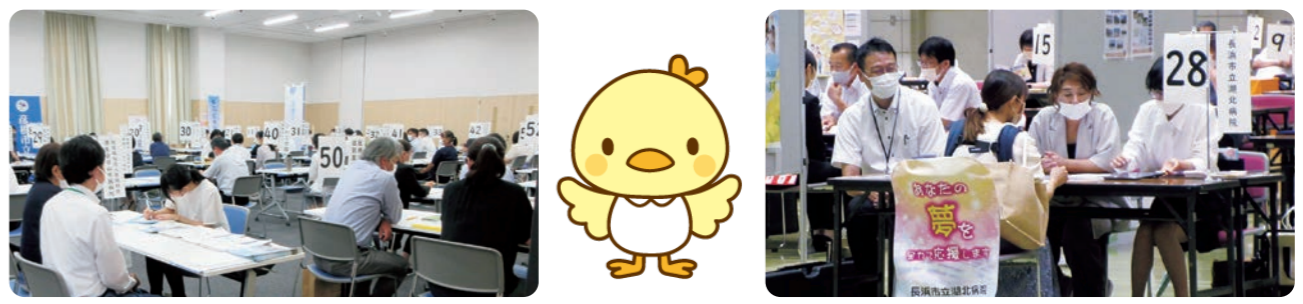
滋賀県ナースセンターのホームページトップ画面の「eナースセンター 求人・求職の登録はこちら」をクリック

「求職者の方」の右にある「ご登録・ログイン」をクリック

eナースセンター

看護職・看護補助者就職説明会

7月25日南部会場(キラリエ)は25名、8月24日北部会場(米原)は12名の参加でした。看護職・看護補助者就職フェア(就職面接会)は来年1月後半にキラリエ(草津)で開催予定です。詳細は決まり次第ホームページに掲載します。



受講生の声
Vol.17

リスタートナースサポート研修 M.Iさん

リスタートナースサポート研修を終えて

私は長い間、専業主婦をしていましたが、新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに、もう一度、看護の仕事に携わりたいと思い、このリスタートナースサポート研修を知り参加させて頂きました。

そこでは、看護技術だけでなく、現在の看護観や社会における看護の必要性も学ばせていただきました。そして、研修後の実習を受入れて下さる医療機関を希望通りに手配していただき、満足した研修をさせて頂くことができました。バックアップしていただけるという安心感と希望の方向に導いてくださっていることに、改めて看護協会の存在のありがたさを感じました。

学ばせていただいたことは、心構えとして忘れず、この先、看護に携わっていきたいと考えています。ありがとうございました。

SHIGA! はたは通信

就業コーディネーター 寺村 幸子

猛暑が過ぎ去り秋らしく過ごしやすい季節となりました。今年度もリスタートナースサポート研修の研修講師の派遣、現地実習の受け入れ等に、ご協力いただき感謝申し上げます。第1回5月の研修生は16人中15人の就業が決定し就業率は94%となりました。第2回9月研修生も10月は現地実習を経験した後、就職活動に入ります。皆さまにもどこかでお世話になることと思いますが、リスタートナースのご支援をよろしくお願いします。

さて、各ハローワーク出張相談窓口に来られた方の状況ですが、8月時点で71名(相談件数80件)となりました。昨年度と比べると50歳代から60歳以上の方の相談が34%(R4)から44%(R5)と増加しています。就業先としては介護福祉施設が多いのが特徴です。また、全体の相談後就業状況としては、昨年度と比べると訪問看護ステーションと介護福祉施設を希望される方が増え、病院を希望される方はやや減少しています。(図1、図2)働き方として非常勤希望の方が圧倒的に多いので、多様な働き方を取り入れていくことが、ますます重要となってくると考えられます。皆さまのご協力をよろしくお願いします。

〈図1〉
令和5年4月～8月の
相談後就業状況

訪問看護ST	14%
介護福祉施設	33%
病院	29%
診療所	14%
その他	10%

〈図2〉
令和4年度の
相談後就業状況

訪問看護ST	10%
介護福祉施設	21%
病院	37%
診療所	17%
その他	15%

お問合せ先

- 滋賀県ナースセンター TEL.077-564-9494 / FAX.077-562-8998
- フリーダイヤル ☎0120-22-9494 (祝祭日除く月～金 9:00～17:00)
- 彦根サテライト TEL.0749-30-1235 / FAX.0749-30-1233
- E-mail : shiga@nurse-center.net

詳細はホームページをご覧ください

